



「EXILIM ZOOM」を実現させたアイデアと技術力。

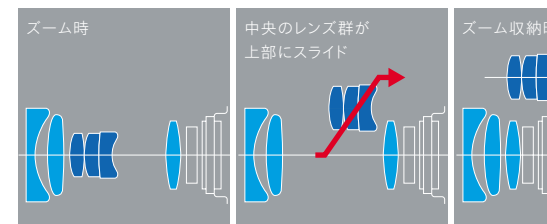
光学3倍ズームを搭載した「EX-Z3」は、単独機種としては4月～8月の間、シェアトップを維持しました※。常識をうち破るカシオのアイデアと技術力が、この薄いボディに結集されています。

※(GfK Japan調べによる)



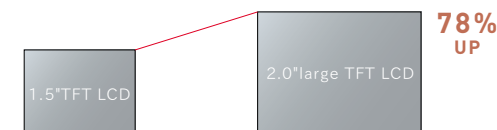
【レンズ】常識を破るアイデア。

「EXILIM」では薄型カードサイズの実現のため、光をとらえる当社独自の設計によりCCDとレンズを一体化したモジュール、HCLI (Hyper CCD-Lens integration) を新たに開発。「EX-Z3」では新開発の3段沈胴光学ズームレンズ (smc PENTAXレンズ) を採用。歪みの少ない高画質を実現しながら、レンズ収納時には、中央のレンズ群がスライドして上部に格納されるという画期的な構造で、大幅な薄型化に成功しています。



【液晶ディスプレイ】見ることの楽しさにこだわる。

従来のデジタルカメラでは、デジタル画像を一度アナログ信号にしてから液晶パネルに送り込んで表示していましたが、当社は「EXILIM」で、デジタル信号を直接送り込んで表示する、デジタルカメラでは世界初のデジタルインターフェースTFT液晶モニターを採用。変換用の部品をなくし、省スペース化に成功しました。「EX-Z3」では明るさと消費電力はそのままに、モニターサイズを2.0型にまで拡大し、さらに見やすさを追求しました。



開発者の談話

「EXILIM」について、開発担当者に聞きました。

商品開発の発想のポイントは？

銀塩カメラに追いつこうと、画素数の多さと多機能を競っていた当時のデジタルカメラ市場になり、デジタルだからこそ可能なものをつくりたいという点です。そこで出てきたのが用途提案でした。「いつでも持ち歩き、手軽に撮る」という今のスタイルです。



カードサイズにこだわった理由は？

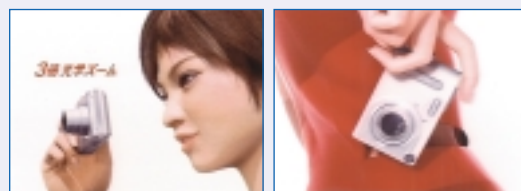
カシオらしい商品にしたかったことと、ユーザーへのインパクトですね。色々な形を試したのですが、使いやすさという点で、やはりこのサイズがベストでした。また、それを実現する技術力が社内にあったということも大きいと思います。

今後の商品開発のポイントは？

毎日持ち歩くものとして考えると、腕時計のようにアクセサリとしての要素も大きくなっていくと思います。その視点に立つと、機能も重要ですが商品としての完成度、スタイリッシュ感も重要です。この発想は開発当初からあって、ステンレスのボディの質感とデザインにこだわりました。今後もこの点は重視していきたいと思っています。

CFストーリー

「EX-Z3」のテレビCMに登場する女性はコンピュータ・グラフィックス (CG) で作られた人工のモデル。「EXILIM」のスマートさを表現するコンセプトのもと、カシオ社内にてオリジナルに制作されたものです。



【回路基板】究極の小型化へ、高密度実装技術。

「EXILIM」初代機ではLSIやメモリーを1つのモジュールに収めた「MCM (マルチチップモジュール)」の開発により、回路基板を当社従来機に比べ70%省スペース化し、1/3の低消費電力を実現。「EX-Z3」では、これをさらに進化させた立体的実装による「Stack MCM」により、さらに40% (当社EX-S2比) の省スペース化を実現しています。

